

今月のトピックス

- インフルエンザは警報の水準を超え、集団かぜの報告が急増。
- レジオネラ症の報告が引き続き多く、死亡例の報告もあり。
- 水痘の報告が例年より多い。

平成 20 年 12 月 22 日から平成 21 年 1 月 25 日まで(平成 20 年第 52 週から平成 21 年第 4 週まで。ただし、性感染症については平成 20 年 12 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成 20 及び 21 年 週 - 月日対照表

第 52 週	12 月 22 ~ 28 日
第 1 週	12 月 29 ~ 1 月 4 日
第 2 週	1 月 5 ~ 11 日
第 3 週	1 月 12 ~ 18 日
第 4 週	1 月 19 ~ 25 日

全数把握の対象

1 **レジオネラ症**:2009 年 1 月は 29 日現在で 5 例の報告がありました。

2008 年の累計報告数は 32 例(うち 31 例は肺炎型)と、これまでで最も多い報告数となっています。32 例の感染経路の内訳は、水系感染 10 例(うち温泉が疑われるもの 7 例)、塵埃感染 3 例、不明 19 例でした。

全国でも、2008 年の累計報告数は 891 例と、2007 年の 665 例を大きく上回っています。(表参照)

レジオネラ症の報告数の年別推移(2000年～2008年)

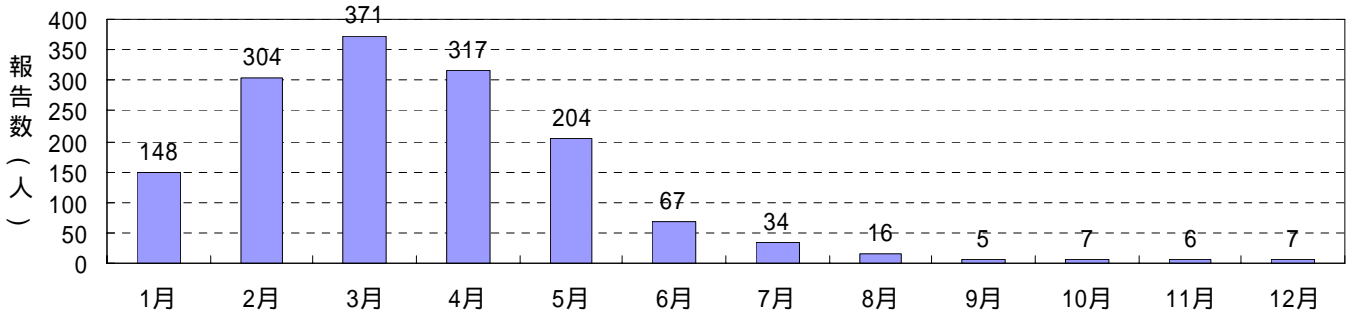
	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
全国	154	86	167	146	161	281	514	665	891
神奈川県	2	2	4	6	6	19	26	43	58
横浜市(再掲)	0	0	3	2	1	8	7	28	32

2 **麻疹**:2008 年から感染症法における 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

2009 年 1 月は 29 日現在で 6 例の報告がありました。

横浜市における 2008 年の累計報告数は 1486 例で、全国の報告数 11008 例の 13.5%でした。年齢別では、10 代(50.4%)が多く、予防接種前の 0 歳(5.9%)にも多く発症しています。また、全体の 48.5%が予防接種未接種でした。

麻疹月別報告数(2008年)



2012 年の麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

横浜市の緊急対策は 2009 年 3 月 31 日で終了します。1 歳～高校 3 年生に相当する年齢の未接種・未り患者は、この機会に接種していただくことが重要です。

横浜市の詳細については、「横浜市における麻疹患者届出状況」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

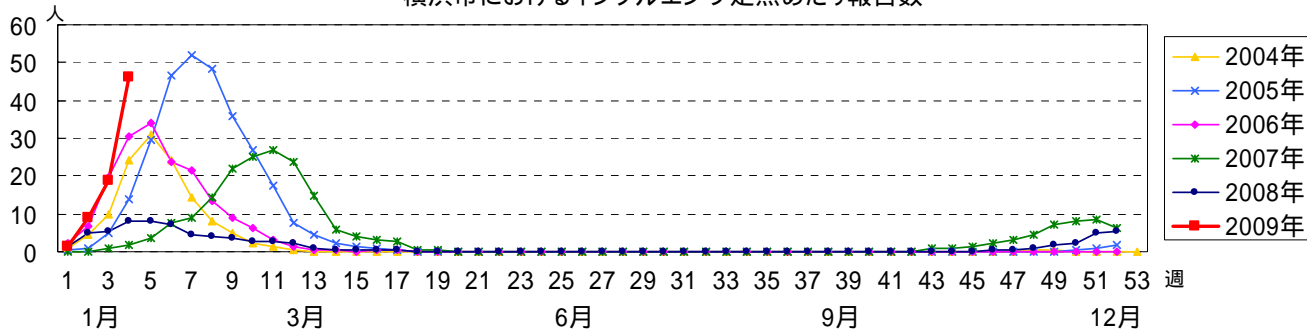
定点把握の対象

平成 20 及び 21 年 週 - 月日対照表

第 52 週	12 月 22 ~ 28 日
第 1 週	12 月 29 ~ 1 月 4 日
第 2 週	1 月 5 ~ 11 日
第 3 週	1 月 12 ~ 18 日
第 4 週	1 月 19 ~ 25 日

- 1 **インフルエンザ**: 今シーズンは、過去 5 年間で最も流行開始が早かった昨シーズンに次いで早く、2008 年第 49 週に流行の目やすとなる「定点あたり報告数 1.0」を超え、2009 年第 3 週に 18.74、第 4 週には 45.93 と警報水準の「30」を超えました。行政区別では、磯子区(65.86)、泉区(65.29)、都筑区(62.63)、緑区(62.50)、瀬谷区(61.17)、神奈川区(52.63)の順で多く報告されており、西区、中区以外の区は警報水準を超えています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 50.96、川崎市は 39.60、全国は 37.45 でした。

横浜市におけるインフルエンザ定点あたり報告数



迅速診断用検査キットによる型別の集計では、第 4 週に A 型 5145 件、B 型 320 件、A・B 共に陽性 10 件の報告がありました。また、2008 年第 47 週以降、病原体定点と集団かぜの検体からのインフルエンザウイルスの分離・検出数は併せて 69 件あり、その内訳は AH1(ソ連型)37 件(54%)、AH3(香港型)23 件(33%)、B 型 9 件(13%)となっています。

学校等における集団かぜは 2009 年 1 月 24 日までに施設閉鎖 4 施設(4 施設)、学年閉鎖 3 施設(3 学年)、学級閉鎖 31 施設(32 学級)の報告がありました。

横浜市インフルエンザ流行情報もご覧ください(薬剤耐性検査の情報等より詳細な情報があります)。

http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza_rinji_index2008.html

- 2 **RSウイルス感染症**: 例年冬季に流行が見られますが、昨年は立ち上がり早く、第 37 週から増加の兆しが見られ、第 47 週に定点あたり 0.97 とピークとなり、その後減少し、2009 年第 4 週は 0.10 でした。行政区別では中区(3.00)が多く、金沢区、港南区からも報告があります。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 0.06、川崎市は 0.16、全国は 0.21 でした。
- 3 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 例年、春季を中心とした流行の後に夏季には大きく低下し、また冬季の流行に向かって増加します。昨年は、第 34 週に最低値となった後、細かな増減はあるものの増加傾向が続き、第 49 週には定点あたり 2.52 となりました。年末年始に少し減少しましたが、その後やや増加し 2009 年第 4 週は 1.49 でした。行政区別では港北区(5.14)が高く、次いで緑区(3.00)、保土ヶ谷区(2.00)となっています。今後の動向に注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 2.14、川崎市は 1.53、全国は 2.06 でした。
- 4 **感染性胃腸炎**: 昨年は、第 43 週から増加の兆しが見られ、第 51 週の定点あたり報告数は 18.51 と、今シーズンで最も高い値となりました。その後減少し、2009 年第 4 週は 6.21 で例年並みの水準です。行政区別では金沢区(9.50)、戸塚区(9.33)、港北区(9.29)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 7.68、川崎市は 10.06 と、どちらも横浜市より高い値です。全国は 8.58 でした。
- 5 **水痘**: 例年、年末年始にかけて発生が増加しますが、2009 年第 2 週の定点あたり報告数は 3.67 と、過去 5 年間で最も高い値となりました。その後減少し第 4 週は 2.30 となりましたが、今後の動向に注意が必要です。行政区別では泉区(5.25)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 1.15、川崎市は 1.78、全国は 1.88 でした。
- 6 **性感染症**: 性感染症は、診療科でみると産婦人科系の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。
12 月は、11 月に比べて全体としては横ばいですが、女性の性器ヘルペスウイルス感染症がやや減少しました。19 歳以下の若年層については、男性は性器クラミジア感染症で 1 例、淋菌感染症で 1 例、女性は性器クラミジア感染症で 2 例と、11 月に比べて減少しています。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>